

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①子どもの興味・関心が高まる生活科・総合的な学習の時間を行い、主体的で対話的な学びに努める。どの学習でも問題解決学習を繰り返し、「主体性」「協働」「伝え合い」の資質・能力を育成できるようにする。②学年に合わせたICT授業視点表を活用し、ロイロノートを活用した授業実践を積み重ねる。
担当 知部会	

学力向上に関わる本校の状況
<p>市学習状況調査では、市平均を上回る通過率の教科や観点はありますが、下回る教科・観点・領域も多い。特に、国語の「思考・判断・表現」の領域では、下回る結果がある。資質・能力の「伝え合い」を身に付けられる言語活動や話し合いを中心とした授業展開の工夫をする必要があると考察する。</p> <p>昨年度は、授業を伴う研究会を開催し、学校教育目標に関わる資質・能力の分析や見取る時間を十分設定することができた。生活科・総合的な学習の時間を中心に、問題解決的な学習や人・もの・こと(対象)と豊かに関わる体験をもつことができた。</p> <p>学校評価を振り返ると、多くの子どもが対話的で主体的な学びを創り上げていく実態がある。また、「協働性」の資質・能力の視点から見ても、ふれあい文化祭では、目標に向かって会を創り上げる姿が見られた。一方で、「伝え合う」や「主体性」の資質・能力の視点で見ると、地域の学習材をより深く関わったり、仲間とより対話的に活動する場面が必要である。</p> <p>ICTでは、ロイロノートを活用した授業場面がどの学年も見られた。観察や授業記録を蓄積するインプットする活用は、学年のレベルに合わせてできるようになり成果がある。一方で、分かったことや調べたことをまとめ視覚的な効果を生かして、プレゼンなどの発表をする場面がまだ多く見られていないように感じる。</p> <p>学年に合わせたICTの効果的な使い方を考えて、より授業実践を積み重ねる必要がある。</p>

今年度の目標
①3つの資質・能力を意識した授業改善・実践を行い、具体的な子ども姿で資質・能力を明らかにすることができる。②年間通してICT授業視点表を活用し、ロイロノートを活用した授業実践を積み重ねる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ●年度初めには、クラスごと生活科では、春の単元を始めること、総合では、単元を立ち上げことを同時期に行う。 ●単元立ち上げシートやウェビングを活用した単元構想作りを行い、ねらいをもった体験や問題解決学習をする。 ●対話的な学びの一つである話し合いを中心とした授業作りに取り組むために、学年ごとに話す・聞く視点を意識した授業を行う。 ●「主体性」「協働」「伝え合い」の3つの具体的な姿と手立てについて研究協議会で話題とする。 ●ICT授業視点表を活用し、ロイロノートでの授業実践をする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ●生活科・総合的な学習の時間での単元の終末を考え、子どもの成長を見とり、研究の成果を作る。 ●対話的な学びの一つである話し合いを中心とした授業作りに取り組むために、学年ごとに話す・聞く視点を意識した授業を行う。 ●「主体性」「協働」「伝え合い」の3つの具体的な姿を研究協議会で話題とする。 ●ロイロノートを活用した授業実践をする。 ●ロイロノートを活用した授業作りの成果・課題を議論し、情報活用能力を育成するための大きな視点や方針を立てる。